

長引くコロナ禍の影響で、心が落ち着かない人が増えていきます。ストレスは無くす事は出来ません。しっかりと向き合い、どの様に対処すれば良いのか考えて、行動しましょう。仏教的に言えば、座禅や写経、読経がお勧めです。何を行うにせよ、「継続は力なり」です。続けられるものを見つけてみましょう。

フクギ 良啓



境内に三本のフクギの大木があります。子供の頃から見て来ているので、外でフクギを見つけると観察していますが、お寺ほど大きなフクギを見た事がありません。詳細な樹齢は分かりませんが、三百年以上のもので推測されますが、もしかしたら、創建時(約五六十年前)と一緒に植えられたかも知れません。

フクギは、樹上の高さや根の深さがほぼ同じの為、大地にしっかりと根付きます。その為、台風でも折れる事がほとんどありません。また、根は真下に向かい伸びるので、建物の周囲に植えても建物を脅かす心配が無い事から、防風林として人気があります。

ところで、神宮寺のフクギは戦前までは四本あり、山門(お寺の正門)として参拝客を迎えていました。宜野湾市役所方面から普天間に向かう道からお寺をみると、ちょうど正面にフクギが見えるのも、納得頂けると思います。これが沖繩戦の際、砲弾が直撃し、一本折れてしまいました。長く生きると色々な事が起きます。

現在、私たちは数百年に一度の大災害に見舞われていますが、お寺のフクギの様に、しっかりと根を伸ばし、揺るがない人生を歩みたいものです。先ずは、私たちよりもご長寿なフクギにあやかりにお参り頂き、直接木肌に触れてください。気持ち温かくなり、不思議な安心感が得られる事をお約束します。



伝説の洞窟へ

寺務員

三原

十年前の事です。高知県室戸市に里帰りした際に、弘法大師空海様が荒行をされたと言えられる洞窟を見学してきました。

室戸岬の断崖には、荒波に削られてできた二つの洞窟が、海に向かって口を開けるように左右に並んでいます。

当時十九歳の空海様は、左側の御厨人窟(みくろど)に居住し、右側の神明窟(しんめいくつ)で、真言を百日で百万遍唱えるという難行を積んだそうです。

この厳しい自然の中での修行中、明け方の東の空から現れた光明に身を包まれるという神秘体験をしたことが自らの著書に記されており、また、洞窟の中から見える空と海だけの景色に感銘を受け「空海」の僧名を得たと言います。



一日一万回も真言を唱えるとは、どれほど苦しい行なのでしょう。それを百日も続けるとなると、行を始める前と後とでは人が変わってしまいうさね。きっと高い志を持った人にしか成しえない難しい行であったにちがいません。

少しでも修行の気分を味わってみたいと、御厨人窟の中でしゃがんでみました。明るい入口の向こうには空と海が見え、岬に打ち寄せる大波の音が間近に聞こえました。海飛沫が飛んでくるのか、かすかに潮の匂いもしました。



落石の為、しばらく立ち入り禁止となりましたが、つい最近仮設通路を設置し、入洞が再開されたそうです。コロナ禍が落ち着いたら是非、訪れてみてください。

左側の御厨人窟



御厨人窟の中



空と海

